

National Security Implications of the UFO/ETI Subject A Brief Summary

Copyright Steven M. Greer, MD

30 August 1995

UFO/ETI 問題の国家安全保障に対する意味 要 約

著作権 スティーブン・M・グリア, 医師

1995年8月30日

([SiriusDisclosure](#) のウェブサイトより)

UFO/ETI (未確認飛行物体/地球外知性体) の主題の国家安全保障に対する意味という問題は、現在ほとんど認識されていないが、深遠であり広範囲に及ぶ。

これらの意味は、別々にではあるが互いに関連する問題として考察される：つまり ET の活動に内在する問題、およびこの問題が秘密に管理されている現在の状況から生じる問題である。

歴史的背景：

初期に国家安全保障上の観点から検討されたのは、地球の近傍にいる、あるいは地球に着陸した地球外宇宙機 (ETS) の発覚が国民の間にパニックを引き起こす懸念、および進歩した地球外物質が軍拡競争と冷戦に影響を与えるという技術上の懸念だった。さらには、宗教的信念体系、政治的秩序、および経済体制への影響も懸念された。

重要なことだが、一旦実際の ETS (地球外宇宙機) が 1947 年に回収され、地球外の機械装置が研究され、我々の軍事応用のための逆行分析 (back-engineer) が可能になると、当時の当局者たちはこの問題の完全な秘密性を最優先事項と考えた。核の時代の始まりであり、ソ連との冷戦が激化していた状況下では、地球外技術の導入がすでに危険になっていた事態をさらに不安定にすると考えられたのは理解できる。さらに、原子爆弾および水素爆弾に関係した技術の秘密がソ連のスパイにより盗まれた歴史を考えると、地球外技術に関係するいかなる技術上の大飛躍も、ソ連の手に渡るかもしれないと懸念されたことも理解できる。もしこのような出来事により、米国よりも先にソ連が実際の軍事応用を可能にしていたなら、明らかにそれは米国の軍事能力を破滅的に不利にする可能性があった。

1970 年代以来、この問題についてある程度の協力がソ連、米国、その他の国々の間で展開されていると信ずべき根拠がある。また確かに冷戦の終結は、技術の大飛躍とソ連による攻撃の恐怖に対

する初期の懸念をほぼ取り除いた。

さらにまた、国民のパニックを懸念するという秘密の心理学的根拠は、今日では通用しない。少なくとも人々の 57 パーセントが、UFO が現実であり、地球外に起源を持つことを受け入れている。人類による 30 年から 40 年に及ぶ宇宙開発は、宇宙旅行を実現した他の地球外文明が存在するかもしれないという考えを、人々の間に浸透させた。要するに、秘密の理由とされた以前の懸念は、今日では的外れである。

本質的に、地球外知性体の存在が国家と世界の安全保障に脅威を与えると信ずべき根拠はない。もし敵意や侵略が、彼らがこの地球に来ている目的に関係しているとすれば、その敵意を示す出来事が遙か以前に起きていただろう。我々の評価によれば、地球外知性体に敵意はない。しかし戦争行為と宇宙の軍事化に関係する人類の能力をとて懸念している。ICBM（大陸間弾道ミサイル）施設とそれを含む軍事的宇宙開発の無能力化に関係する地球外宇宙機の活動は、大量破壊兵器の出現および宇宙開発と相まった、人類が持つ攻撃性の知られた歴史に対する彼らの懸念に照らせば、理解されるはずである。実に、人類の兵器が地球外宇宙機を標的にし、追跡してきた過去の歴史を考えれば、地球外知性体が驚くべき自制によって対応してきたと我々は信じている。

皮肉なことに、国家安全保障への脅威は、地球外知性体の存在によってではなく、この主題に対する現在の秘密管理から生じている。50 年以上も地球外知性体による脅威がない中で、現在の秘密性を地球外知性体による侵略の恐怖に基づいて正当化することはできない。地球外知性体の存在に関係する公開は、もし穏やかに理性的に提示されるなら、米国でも他の場所でも、人々のパニックを引き起こすことはないだろう。1995 年は 1945 年ではない。そして世界中の社会はこの情報を肯定的に受け入れる段階にまで成長した。

その一方で、おそらく憲法を外れたこの問題の秘密管理は、国家と世界の安全保障に対する真の脅威であり、憲法で保障された自由と民主主義を蝕んでいる。これを終わらせない限り、この秘密管理は米国の国家安全保障と持続的世界平和への機会を著しく阻害することになる。

評 価：

我々の評価によれば、この問題に対する現在の秘密管理は、以下の要素を含む。これらは国家安全保障に対する直接的で差し迫った進行中の脅威である：

1. 地球外知性体の存在を否定し続けることは、地球外知性体に関係する出来事が突然に、否定しようもなく、公然と起きたときに、パニックを引き起こす状況を生み出す。なぜなら、国民の恐怖を和らげることができる、先を見越した公開の取り組みが存在しないからである。地球外知性体に関係するこのような出来事は、ここ 2 年から 10 年以内、あるいはもっと早く起きる可能性がある。それゆえに、秘密性と否定は国家と世界の安全保障にとり真の脅威である。

2. この問題に対する現在の秘密管理は、独立して活動し、憲法による指揮系統の外にあるように思われる。これらの活動を制御しているグループは偵察、地球外技術の逆行分析、および宇宙で（とりわけ）ETS（extraterrestrial spacecraft；地球外宇宙機）を標的にする行為を行っており、憲法にも行政府の監督と制御にも応答しない。これは国家安全保障と立憲民主主義および自由に対する重大な真の脅威である。

3. 我々の信頼すべき直接証人によれば、地球外宇宙機が人類の秘密宇宙兵器により標的にされ、これまで少なくとも2度破壊されている。もしそれが本当なら、世界の平和と安全保障に対する危険は現実であり、切迫している。また、これらの秘密活動の継続は、国家と世界の安全保障に実に深刻な危険をもたらす。人類の秘密兵器による地球外宇宙機に対する敵対行為は、国家安全保障への由々しき差し迫った脅威なのである。国連とも、議会とも、米国大統領あるいは国民とも相談せずに活動している比較的小さな秘密組織が、人類の代表として地球と世界平和を危険にする行為に関与している。それを統制しない限り、これらの行為はやがて惑星間紛争を引き起こし、世界一般、とりわけ米国に災厄をもたらすだろう。この秘密管理を終わらせ、この問題の制御を憲法が定める権限および社会共有の領域に返さなければならない。

4. 地球外技術の逆行分析に関係する技術の進歩が、ある小さな秘密活動の手に集中している状況は、国家安全保障、世界の安全保障、および地球の未来にとり重大で差し迫った脅威である。45年以上も秘密の研究開発の対象だった地球外技術は、もし平和的な目的に賢明に利用されるなら、人類に多大な利益をもたらす潜在力を秘めている。しかし、それが国民にも法律と憲法に基づいた指揮系統にも応答しない小さな秘密活動に集中したときには、とてつもなく危険である。このことが米国と世界の安全保障にもたらす脅威は重大であり、この状態が長く続くほど、進歩した技術の支配権が相対的少数者の手に集中する。このような強力な技術の秘密裏の支配は、本質的に自由と民主主義、そして我が国民と世界に対する脅威である。憲法を外れた秘密行動計画のためにこれを使うことは、我々の国家に対する深刻な脅威であり、抑制され転換されなければならない。

5. 重要なことだが、秘密と秘密工作員そのものが国家安全保障に対する真の脅威となる。立憲民主主義のもとでの国家安全保障は、自由と民主政治に合法的に結びついてのみ可能だからである。自由と民主主義、抑制のない秘密と秘密権力、生来これらは共存できないがゆえに、きわめて稀な正当化できる状況でしか極端な秘密と秘密活動は存在し得ない。地球外文明の発見が持つ深遠な意味が、国民への公開と協議に無関係な秘密活動だけの領域にあることは許されない。そのような行為は米国憲法、民主主義、および自由を蝕むものであり、国家安全保障に対する重大な真の脅威となる。

6. 最後に、この問題の排他的な秘密管理は、世界が平和的かつ互恵的に地球外知性体を受け入れる機会を失うという結果をもたらし、それが今も続いている。つまり、世界の人々、国連、他の多くの国際的な機関や国内機関が、この問題に理性的に対処する機会を奪われているということであ

る。その結果、国家と世界の安全保障は、以下の分野でその機会を失うという負の影響を受けている：

◆ 地球環境は、次の 100 年間に大規模崩壊が起きる深刻な危険に曝されているが、もし地球外技術が平和的に展開されるなら、大きく改善されるだろう。汚染を発生しない、いわゆるゼロポイント・エネルギーまたはフリーエネルギーのシステムが、地球上に持続可能な技術文明が存続することを可能にし、地球を環境的にも経済的にも転換させるだろう。地球外文明との平和的かつ互恵的な関係の確立により、やがて我々はこのような技術を理解し利用することが可能になるだろう。

◆ 我々は宇宙で孤独ではないと全世界が認識することにより、世界の一体化と平和が増進されるだろう。この事実を認めることにより、我々は地球という共通の故郷の上で生きる、本当に一つの惑星民族であるという意識が高まるだろう。その結果、現在地球を苦しめている紛争の多くが新しい視点から考察されることになるだろう。これは地球外知性体の存在を神聖化することも悪魔化することもなく、それを公平で、科学的で、中立的な視野に置くことにより達成される。結局、世界平和と地政学的現状の著しい改善が、我々は孤独ではないという事実の公開により実現されるだろう。一つの国際的な構造基盤、および地球外文明との関係に平和的に対処できる諸機関が必然的に発生し、その結果として、世界の一体化と協調が強化されるだろう。

◆ 世界の文化、思想、科学、および他の多様な分野が別の世界との平和的な関係の発展により恩恵を受けるだろう。このプロセスは、数世紀ではないにせよ、数十年を要するだろう。しかし時間はかかるうとも、結局それは地球の人々が地球全体のみならず、他惑星の文明とも一体化することになる道である。

要約すると、国家安全保障にとって急を要することは、大統領と議会が UFO/ETI の主題の秘密と秘密管理を終わらせるための措置を講じることである。この問題を明るみに出し、国民への公開と制御に失敗すれば、世界の歴史における民主主義と政府の最も憂慮すべき失敗ということになる。これを行なうことは、民主主義に対する我々の忠誠、人々に対する我々の忠誠が試されることに他ならない。21 世紀が近づいている。我々は冷戦の遺物である癌のような行き過ぎた秘密を終わりにし、民主主義が再確認され永続する世界平和への機会が与えられる、新しい時代を展開しなければならない。

(訳：廣瀬 保雄)